

生活を支える物質として—— 材



【赤松材を用いた経木】
経木は、木を薄く削りだしたものの。もともとは紙の代わりの記録媒体として用いられたが、木の持つ通気性や抗菌作用などを生かし、包装材としても利用されてきた。国産の赤松を用いた島倉産業(株)(三区町)の経木は、那須塩原ブランドの認定品の一つ。10月に本市で行われる「いちご一会とちぎ国産材とちぎ大会」の弁当箱にも活用される予定

【木材をふんだんに使った那須塩原市図書館 みるる】
木のぬくもりが感じられる館内。公共施設でも国産材を主とした木材利用が進む



生活に不可欠な木の存在

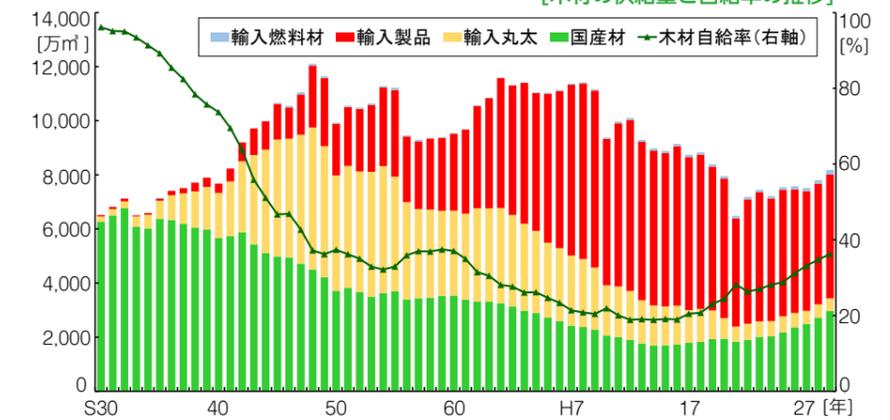
木材も私たちの生活に欠かせない資源の一つ。古くから、建築をはじめ生活用品、土木資材、燃料など、さまざまな用途で利用されています。技術の進歩によって生活が徐々に便利になる現代においても、変わらず木材が利用されているのは、木の持つ特性や魅力が人々に選ばれているからでしょう。

環境や地産地消にも貢献する森林

最近では、地球温暖化を防止するため、脱炭素が世界的に叫ばれるようになりました。二酸化炭素の排出量を減らすためには、化石燃料の利用を減らすことはもちろん、すでに排出された炭素を減らす取り組みも必要です。

また、循環型社会の構築やSDGsの観点などから、「地元で採れたものを地元で積極的に消費する」という考えが少しずつ浸透しています。木材も地元で採れる資源。新型コロナウイルス感染症の感染拡大やウクライナ情勢などによる資材価格の高騰は、化石燃料に乏しい日本が持つ最大の資源「森林」への回帰を促していると言えるのではないのでしょうか。

【木材の供給量と自給率の推移】



コロナ禍により高まる森林浴需要

森林の香り、葉が揺れる音、鳥のさえずり、土を踏みしめる感触：自然によって形成された空間は、非日常体験を与えてくれます。コロナ禍の今、感染リスクを避けた過ごし方として屋外レジャーが人気です。キャンプ、登山、川遊び、サイクリングなど、ある程度準備が必要なものもありますが、手軽に公園を散歩する人も以前より多く見かけるよう

自然がいざなう 癒やしの異空間へ

国立公園を有するほど自然豊かな本市では、自然資源を生かしたレジャーや散策プログラム、講座などが開催され、市内・外問わず多くの人が森林を訪れています。春から夏にかけて、新緑が次第に濃くなる季節。ステイホームの長期化で心身に疲れを感じる人は、森林浴に出かけてみてはいかがでしょうか。

非日常体験を得る場として—— 癒



季節ごとの移ろいを 感じさせてくれるのが森林

自然が好きでよく散策などに行くのですが、那須塩原の植生は他地域に比べて豊かだと思います。初のビジター利用では、コンダクターが丁寧にガイドをしてくださることもあり、一人では見逃してしまうような植物にも気づくことができました。今回参加した4月下旬はスマレが特にきれいでした。今しか見られないこの瞬間を楽しめるのが自然、森林の良さだと思います。

ビジタープログラム参加者
土田 民江さん(宇都宮市)

ビジターセンター自然散策プログラム
ネイチャーウォーク大沼公園
初夏の山野草と樹木をじっくり観察！
モリアオガエルと初夏の森

▶とき
①6月10日(金)・11日(土) 各回9:30~12:30
②6月12日(日) 9:30~14:30
※②は新湯富士コース含む。
※年間を通してプログラム開催中。
※ホームページからも申し込み可。

▶申し込み・問い合わせ
塩原温泉ビジターセンター
☎ 0287(32)3050

防

森林は自然災害の防波堤

森林には、土壌を保全し、土砂災害を防ぐ機能もあります。樹木の根が土砂や岩石などを固定することで土砂の崩落を防ぎ、森林の表土が下草などで覆われることで、雨水などによる土壌の浸食・流出を防ぎます。また、森林の土壌は、スポンジのように雨水を吸収して一時的に蓄え、徐々に河川へ送り出す役割を果たすので、洪水の緩和にも寄与します。



地球環境・生活の安全を守る力として——

とちぎ材の家づくり支援事業
県産木材を一定量以上使用した住宅の新築・増改築の費用を補助します。

▶補助金額 県産木材の使用量に応じて5~40万円(新築)、5~15万円(増改築)
※伝統工芸品などの使用で上乗せあり。
※補助金交付には条件あり。

▶申請先 県木材業協同組合連合会
▶問い合わせ 県林業木材産業課
☎ 028(623)3277